



横浜みどりアップ計画

地域緑のまちづくり事業

R E P O R T

●地区名 柿の木台地区



◎
所在地：青葉区 柿の木台

● 取組期間

3
か年

● 協定締結期間

平成26~28
年度

横浜みどりアップ計画とは

緑の減少に歯止めをかけ、
「緑豊かなまち横浜」を次世代に
継承するため、「横浜みどり税」を
一部財源として活用しながら、
「横浜みどりアップ計画」を進めています。

横浜みどりアップ計画



地域緑のまちづくり事業とは

地域が主体となり、住宅地や商店街、
オフィス街、工場地帯など様々な街で、
地域にふさわしい緑を創出する
計画をつくり、市民との協働により
緑化を進めるものです。

地域緑のまちづくり事業



●団体名 やもと農塾

●計画名 土づくりは、ひとづくり、まちづくり



地区の範囲図及び緑化実施場所

団体の概要・地区の諸元

柿の木台の世帯数は約2,400戸、人口は約5,300人で、65歳以上の人は約23%（青葉区平均18.2%）で独り暮らしの人も増えています。5年後には4人に1人が高齢者と予想されています。そこで、高齢者にやさしい地域にしたいと、以前から、農業や土づくりの活動を行っていた、やもと農塾が発起人となって、柿の木台の町内会、公園愛護会等の協力を得て、本事業に取り組みました。周囲には、多くの古墳群があり、昔ながらの里山の風景があります。約40年前から、山や田んぼが造成され、住宅化されました。町内は、坂道が多いため、コンクリート等の擁壁が多いのがこの地域の特徴です。

取組（計画）の概要

地域の人々が『歩きたくなるような、歩いて楽しいまち並みの柿の木台』となるように緑化を目指します。具体的には、

- ① 堆肥の自作（家庭の生ごみ、街路樹の落葉を利用）を通じて地域の美化活動と自然循環型土づくり
- ② オリジナルお花箱とベンチの製作
- ③ 当地由来の禅寺丸柿500本の植樹
- ④ 『大山道』を中心とした散歩道の策定
- ⑤ 緑化コンクールの実施を目指します。

柿の木台町内全体が近隣地域の『心の里山公園』と成る事が最終目的です。



- ① 会の主なメンバー
- ② 擁壁と歩道の空きスペースにお花箱を設置
- ③ 連続したお花箱の様子
- ④ 個人宅の空きスペースにお花箱を設置
- ⑤ 地域の方が利用する場所へお花箱設置
- ⑥ お花箱作成の様子
- ⑦ 現地見学会の様子
(27年度の交流イベント)

3か年の主な取組実績

● 助成金額合計 5,433千円

民有地緑化

地区内に、オリジナルのお花箱の設置が進みました。

地区内の坂道にある石積擁壁のスペースや、バス通りの店先等に、神奈川県産の間伐材を使用した材料を用いて、図面から制作まで、会のメンバーで行い、1つ1つ現地の形状等に合わせたお花箱(プランター)を制作しました。地区内にアンケート調査を実施しながら設置場所を調整し、3か年の活動で、延べ28か所にオリジナルのお花箱を設置し、地域の方々の憩いの場ともなっています。



活動支援

緑や花を通じた「意識のつながり」の醸成
土づくりの講習会や堆肥づくり場の作成、柿の木台の由来にもなった、禅師丸柿の苗木配布を行うなど、地域に根差した緑化活動を実施しました。また、広報誌「伝心録」を発行するなど、積極的に、会の活動を地域に周知し、こうした活動の結果、約8割の地域の方々から、「まちが明るくなった。」などの好意的な意見につながりました。

3か年の取組を振り返って [地区のインタビューのコメントから抜粋]

協定を締結してから1年目の活動期間が短かったため、お花箱の材料調達から土の準備、花苗の植え付けまで、時間がないで実施しなければならず、1年目のお花箱の設置はかなり苦労しました。メンバーにモノづくりの経験者がいたので、その方を中心に、みんなでまとまって制作を行ったことは、この活動の大きな自信となりました。また、地域の方から、「まちがお花できれいになって、歩くのが楽しい。」などの声が聞かれ、会の活動の効果を実感することができました。



お問合せ先

横浜市環境創造局みどりアップ推進課
Tel.045-671-3447 | Fax.045-224-6627
メール ks-ryoka@city.yokohama.jp